

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース						
対象者	医学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>ゲノム解析技術の進歩により一度に多数のゲノム異常を検出できる時代になり、ゲノム情報の理解と医療への応用がいわゆるPrecision Oncologyにおいて不可欠となりつつある。従ってゲノム医療を実践できる人材の育成は喫緊の課題であり、本教育プログラムでは以下のスキルの有する将来のゲノム医療を担う人材の育成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゲノム検査とその結果を正しく解釈できる 2. ゲノム検査の結果に基づき自ら適切な治療計画を立てることができる 3. 患者にゲノム検査結果内容を分かりやすく伝えることができる 4. 偶発的所見・二次的所見(HBOCやLynchなど)に対し適切に対処できる 5. ゲノム医療に関する臨床研究を計画・遂行できる 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・医学研究科に4年以上在学し、分野科目から24単位以上、大学院教育コース「腫瘍学コース」、「ゲノム・オミックス統計解析コース」、「医工情報学連携コース」のいずれかのコース科目より6単位以上の合計30単位以上を修得し、研究指導を受け、かつ、医学研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。 ・本教育プログラム・コースで定める科目について、必修科目10単位以上を履修すること。 ・ゲノム医学研究に関する学位論文と学位修得 						
履修科目等	<p><必修>腫瘍学コース]又は「ゲノム・オミックス統計解析コース」、「医工情報学連携コース」6単位 講義：ゲノム医学（3単位）、腫瘍生物学、臨床腫瘍学（2単位）、臨床薬理学、臨床試験、生物統計、医学英語講義（各1単位）、ゲノム医療OJT演習（10時間） <選択>臨床腫瘍学（4単位）、緩和医療学（2単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>京都大学附属病院では2015年4月よりわが国ではじめて網羅的がん遺伝子変異検査を臨床現場に導入し、ゲノム医療に必要な実践的ノウハウを蓄積している。これまで、150例以上の検査を実施し、ゲノム検査の結果について毎週1回、担当医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医、病理医、バイオインフォマティシャン、遺伝カウンセラー、ゲノム基礎研究者など、多職種のメンバーが集まるカンファレンスが行われ、これらの場を生かし、十分なon the job trainingを経験できるとともに、学内外のゲノム研究者、倫理研究者との連携による教育体制を構築し、臨床と基礎、社会医学と他領域の知識を兼ね備えた人材の育成が可能である。</p>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学の教職員による講義、臨床実習、研究指導 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場におけるゲノム医療の実践と体制整備への貢献 ・ゲノム医療を実践できる医療機関でのキャリアパス ・ゲノム医学の発展を目指した研究開発へ従事 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 博士課程	3	3	3	3	3	15
	計	3	3	3	3	3	15